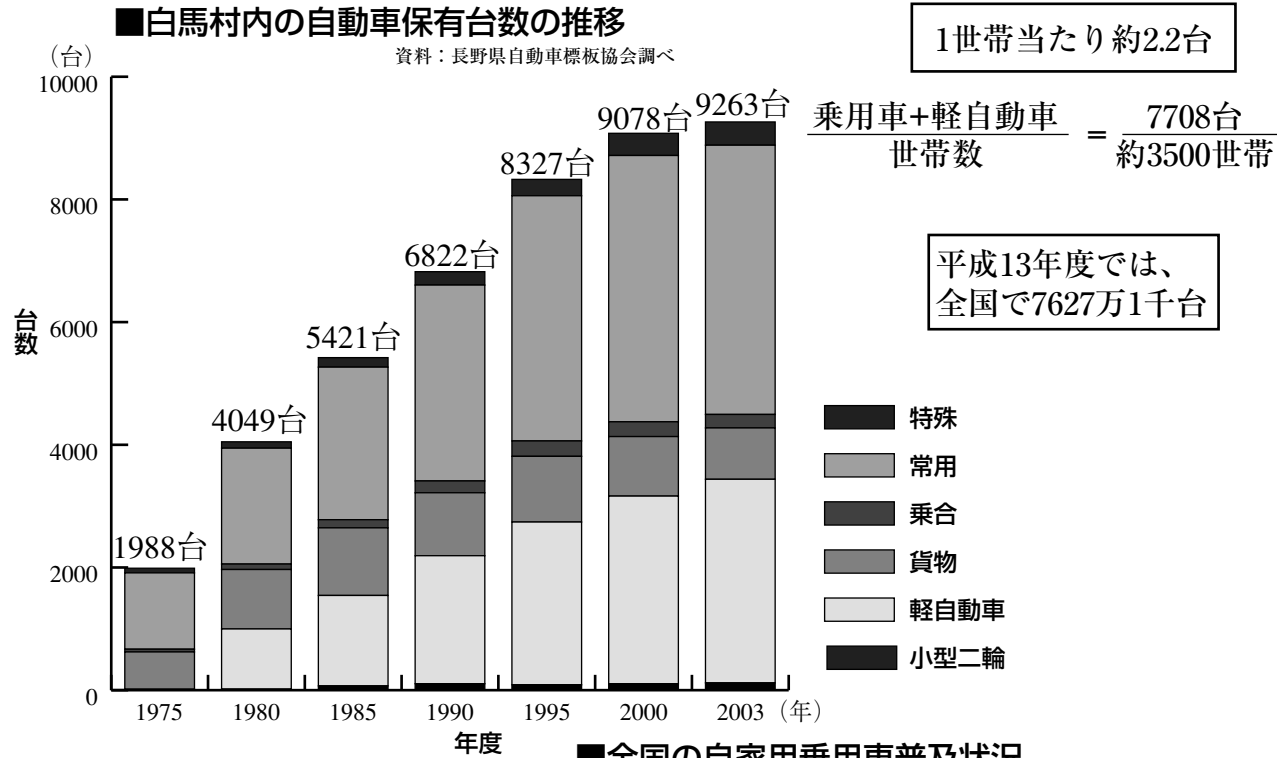


自動車の保有状況



海外の道路



オランダの歩道と車道

・・・それでも危険はある。そこで、歩道側に車止めを付ける。逆にガードレールは少ないため、車止めが歩行者や車椅子での通行を妨げるようにはできていない。歩行者はガードレールに遮られずに車道に出ていくことができるわけだが、車道に出ることによって発生するかもしれない事故については、個人の自由と責任の問題。

■ユニバーサルデザイン（筑波大学芸術学系）レポートより抜粋
http://www.geijutsu.tsukuba.ac.jp/~tyam/UD/

これからの道のあり方



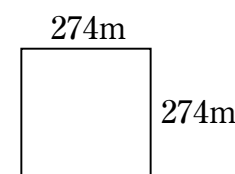
スキー客（観光客）などの歩行者と、車とが、時により危険な状態となる。

日本の道路も車優先から、歩行者や自転車に優しい道路作りが進められてきています。また、町の中心地区では車を規制し歩行者や自転車・バス・路面電車などの公共交通期間に解放することで、町ににぎわいを取り戻そうとする「トランジットモール」とよばれる方法を取り入れる試みもあります。

白馬では、この点（中心街・集落）と点（観光スポット等）を線で結ぶ為の道を安全で楽しく軽快なものにして行く必要があるのではないのでしょうか？

村内保有の車を並べると！

1台の大きさを1.8×4.5mとして計算すると、1台8.1m²となり、9263台分で、75,030m²になります。これは約274m四方にびっしりならべた面積です。また、一列に並べると、16,673mになり、白馬村の南北の距離ほどになります。



■歩行者・自転車優先のみちづくりホームページ 国土交通省、道路局

www.mlit.go.jp/road/road/yusen/transit/

歩行者・自転車の優先
トランジットモール
まちのにぎわいの創出をめざして



中心市街地は、古くから商業、業務など様々な機能が集まり、人々の生活や娯楽、交流の場となり、また、長い歴史の中で独自の文化や伝統を育むなど、その街の活力や個性を代表する「顔」とも言うべき場所です。しかし、近年、モータリゼーションの進展や大規模店舗の郊外立地、居住者の減少などによって、中心市街地の活力が低下しています。中心市街地本来の活力や魅力を高めるために、道路空間をより快適で、より魅力あるものとしていくことが求められています。

中心市街地の活性化を図るための手段のひとつとして、
海外で成功しているトランジットモールを
導入することが考えられます。

トランジットモールとは、中心市街地のメインストリートなどで一般車両を制限し、道路を歩行者・自転車とバスや路面電車などの公共交通機関に開放することでまちの賑わいを創出しようとするものです。

- トランジットモール内では、歩行者は自動車に気せず安心して買物を楽しむことができます。
- トランジットモールを通るバスや路面電車などの公共交通機関が、歩行者の移動を補助する役割を果たします。
- 高齢者や子供、身障者など、自動車を利用できない人々も安心して中心市街地に來ることができます。